

黒ろー黒ろく

黒ろ [支路] (名) えだま。
黒ろ [仕路] (名) 官に仕ふる手つぎ。
黒ろあつさ [白小豆] (名) 小豆の一種。
黒ろあつさ [城址] (名) 城のありし舊蹟。

黒ろくー黒ろた

黒ろ [四六文] (名) 偶文の一種。
黒ろ [くくり] (名) 白粉をよもほひ密に練り。
黒ろく [白熊] (名) 熊の一種。
黒ろく [白子] (名) しろこに同じ。

黒ろたー黒ろは

黒ろ [た] (名) しろくは半は赤く。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

黒ろはー黒ろめ

黒ろ [は] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

黒ろめー黒ろく

黒ろ [め] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろめ [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろめ [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

黒ろくー黒ろた

黒ろ [く] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろく [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろく [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

黒ろたー黒ろは

黒ろ [た] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろた [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろた [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

黒ろはー黒ろめ

黒ろ [は] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。
黒ろは [白妙] (名) 白妙に仕立てたる。

真ん

真ん(真) 眞實にあらざるをいふ。真ん(眞) 眞實にあらざるをいふ。真ん(眞) 眞實にあらざるをいふ。

真んあ

真んあ(真んあ) 眞實にあらざるをいふ。真んあ(眞んあ) 眞實にあらざるをいふ。

真んち

真んち(真んち) 眞實にあらざるをいふ。真んち(眞んち) 眞實にあらざるをいふ。

真んか

真んか(真んか) 眞實にあらざるをいふ。真んか(眞んか) 眞實にあらざるをいふ。

真んか

真んか(真んか) 眞實にあらざるをいふ。真んか(眞んか) 眞實にあらざるをいふ。

真んか

真んか(真んか) 眞實にあらざるをいふ。真んか(眞んか) 眞實にあらざるをいふ。

真んか

真んか(真んか) 眞實にあらざるをいふ。真んか(眞んか) 眞實にあらざるをいふ。

真んか

真んか(真んか) 眞實にあらざるをいふ。真んか(眞んか) 眞實にあらざるをいふ。

深んけー深んけ

深んけー眼窮(名) 窮民にものめぐみあ
たぶら
深んけー深んけ(名) 神にけいよき宮殿
深んけー深んけ(名) あらたに建ち上る住居
深んけー深んけ(名) 精緻の虚構より生ずとい
ふ身骨の衰弱
深んけー深んけ(名) わね、こゝろ。「曲
深んけー深んけ(名) あらたに作られたる歌
深んけー深んけ(名) 心中のいぢぶさよ
深んけー深んけ(名) 精神の心をもえさしを切る
用具
深んけー深んけ(名) 甘饅にして軽く日に煎ゆ
深んけー深んけ(名) 地風平穏の日に
深んけー深んけ(名) 大氣の密度が層々相
異なるとき、光線が屈折せしむるがため、地
表の物の像が、海上にては空中に砂漠にては地平
上に現るものを見ても、(霞)の吐く氣の作用な
りといふ俗にたるより此名あり
深んけー深んけ(名) 天子の御心、おほきびさ
深んけー深んけ(名) 若んせん「不談」
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 佛物はけいよきなく、空
氣(も)存在せざる空間(佛)諸法の實相は空
なるなり。「くわん」眞空(「理」空をぬ
きたる種子、陰陽は「エッセンス」光線等の實
に用ふるもの)
深んけー深んけ(名) 不思議なる出現、
と出會ふこと、
深んけー深んけ(名) 時代又は方處を隔てる人と精神
の相一致すること。
深んけー深んけ(名) 神の宮殿、かみのみや、
やしろ。伊勢の大神宮。一「赤ん坊」
深んけー深んけ(名) 伊勢大神宮に附屬して、其神事をつ
かさざる所。
深んけー深んけ(名) 名火の變もゆるが如く、
しくもくり立つ急激な變化、
深んけー深んけ(名) 不思議なる變化、又、自然
の變化、
深んけー深んけ(名) 不慮なる變化、又、自然
の變化、
深んけー深んけ(名) 外界の影響と内
部の發展とにより、世を経過する間に、同一
物となりしものが無次に互の状態を異にする。
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 他人の物事を鼻上する、ま
みせられたる。欺上、
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 親族の系統、「ハ、
深んけー深んけ(名) つもり、もくろみ。かんが
深んけー深んけ(名) 夜明をつけるには、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 神にけいよき宮殿
深んけー深んけ(名) あらたに建ち上る住居
深んけー深んけ(名) 精緻の虚構より生ずとい
ふ身骨の衰弱
深んけー深んけ(名) わね、こゝろ。「曲
深んけー深んけ(名) あらたに作られたる歌
深んけー深んけ(名) 心中のいぢぶさよ
深んけー深んけ(名) 精神の心をもえさしを切る
用具
深んけー深んけ(名) 甘饅にして軽く日に煎ゆ
深んけー深んけ(名) 地風平穏の日に
深んけー深んけ(名) 大氣の密度が層々相
異なるとき、光線が屈折せしむるがため、地
表の物の像が、海上にては空中に砂漠にては地平
上に現るものを見ても、(霞)の吐く氣の作用な
りといふ俗にたるより此名あり
深んけー深んけ(名) 天子の御心、おほきびさ
深んけー深んけ(名) 若んせん「不談」
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが
深んけー深んけ(名) 志たしむるが

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 佛物はけいよきなく、空
氣(も)存在せざる空間(佛)諸法の實相は空
なるなり。「くわん」眞空(「理」空をぬ
きたる種子、陰陽は「エッセンス」光線等の實
に用ふるもの)
深んけー深んけ(名) 不思議なる出現、
と出會ふこと、
深んけー深んけ(名) 時代又は方處を隔てる人と精神
の相一致すること。
深んけー深んけ(名) 神の宮殿、かみのみや、
やしろ。伊勢の大神宮。一「赤ん坊」
深んけー深んけ(名) 伊勢大神宮に附屬して、其神事をつ
かさざる所。
深んけー深んけ(名) 名火の變もゆるが如く、
しくもくり立つ急激な變化、
深んけー深んけ(名) 不思議なる變化、又、自然
の變化、
深んけー深んけ(名) 不慮なる變化、又、自然
の變化、
深んけー深んけ(名) 外界の影響と内
部の發展とにより、世を経過する間に、同一
物となりしものが無次に互の状態を異にする。
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、
深んけー深んけ(名) 親(親)と和(和)と、

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 他人の物事を鼻上する、ま
みせられたる。欺上、
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。
深んけー深んけ(名) 見たしく引見する。

深んけー深んけ

深んけー深んけ(名) 親族の系統、「ハ、
深んけー深んけ(名) つもり、もくろみ。かんが
深んけー深んけ(名) 夜明をつけるには、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、
深んけー深んけ(名) 動物の知覚及運動の傳
達をつかさどる機能、

宛んご 宛んき

宛の加特力を以て即身成佛せしむるとを宗旨とす。
宛んごんりよかり 新旅行 宛んごんりよかり

宛んき 宛んご

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

宛んご 宛んし

宛んごり 宛んごり 宛んごり 宛んごり
宛んごり 宛んごり 宛んごり 宛んごり

宛んき 宛んき

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

宛んき 宛んき

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

宛んき 宛んき

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

宛んき 宛んき

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

宛んき 宛んき

宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり
宛んきり 宛んきり 宛んきり 宛んきり

あんにん

現象の稱、又、異なる二つの氣體が黄燭の如き相... あんにん(名) 現象の稱、又、異なる二つの氣體が黄燭の如き相...

あんにん

あんにん(名) 浸入(名) ひたし入る。あんにん(名) 侵入(名) あかし入る。

あんにん

あんにん(名) 親任(名) 親任官に任ぜられたる。あんにん(名) 親任官に任ぜられたる。

あんにん

あんにん(名) 親母(名) は、い、わ、や。あんにん(名) 親母(名) は、い、わ、や。

あんにん

あんにん(名) 深微(名) あくまかくして知り難き。あんにん(名) 深微(名) あくまかくして知り難き。

あんにん

あんにん(名) 神風(名) 神の吹かせたまふといふ。あんにん(名) 神風(名) 神の吹かせたまふといふ。

あんにん

あんにん(名) 親父(名) あらたにめとりたるつま。あんにん(名) 親父(名) あらたにめとりたるつま。

あんにん

あんにん(名) 親父(名) あらたにめとりたるつま。あんにん(名) 親父(名) あらたにめとりたるつま。

素んみ―素んも

素んみん(人民) 社會を組織する人類た

素んめん(仁免) 名 あはれて罪過をゆるす

素んめん(眞面目) 名 本體そのまゝ、

素んめん(眞面目) 名 本體そのまゝ、

素んも―素んよ

素んもつ(進物) 名 まらちするもの、おくりも

素んも(神文) 名 神明に對して管するた

素んも(神文) 名 神明に對して管するた

素んも(神文) 名 神明に對して管するた

素んよ―素んら

素んら(辛勞) 名 はなをり、くろやう、辛

素んら(心勢) 名 こころづかひ、きね

素んら(辛勞) 名 はなをり、くろやう、辛

素んら(辛勞) 名 はなをり、くろやう、辛

素んら―素んり

素んら(新野) 名 はなをり、くろやう、辛

素んら(心勢) 名 こころづかひ、きね

素んら(辛勞) 名 はなをり、くろやう、辛

素んら(辛勞) 名 はなをり、くろやう、辛

素んり(心慮) 名 もんばかり、おもひか

素んり(心慮) 名 もんばかり、おもひか

素んり(人類) 名 人のたぐひ、人類

素んり(人類) 名 人のたぐひ、人類

素んり(親和) 名 めんくわに同じ、親和

素んり(親和) 名 めんくわに同じ、親和

素んり(眞面目) 名 本體そのまゝ、眞面目

素んり(眞面目) 名 本體そのまゝ、眞面目

すず

すず 蘇(すず)の音、母音ウとの韻音

すず 蘇(すず)の音、母音ウとの韻音

すーすー

す(名) 大根半葉などの心の多少乾燥して多
す(名) 竹又は葉などを以て粗く切ら
す(名) 水中に土砂の塊はれ出たもの。
す(名) 酸味ある糖類。普通には、玄米を蒸らし
す(名) 酸味ある糖類。普通には、玄米を蒸らし
す(名) 酸味ある糖類。普通には、玄米を蒸らし

すあしーすう

すあし(漢字) 漢字。足に履物をつけざると、は
すあし(漢字) 漢字。足に履物をつけざると、は
すあし(漢字) 漢字。足に履物をつけざると、は

すうーすう

すう(名) ありさま。明瞭。先達近衛の「あり
すう(名) ありさま。明瞭。先達近衛の「あり
すう(名) ありさま。明瞭。先達近衛の「あり

すうさーすうは

すうさ(名) 二個以上の犯罪を犯して、未だ有罪の
すうさ(名) 二個以上の犯罪を犯して、未だ有罪の
すうさ(名) 二個以上の犯罪を犯して、未だ有罪の

すうはーすが

すうは(名) 崇拝(名) 敬ぶ。いはに同じ。
すうは(名) 崇拝(名) 敬ぶ。いはに同じ。
すうは(名) 崇拝(名) 敬ぶ。いはに同じ。

すがーすが

すが(名) 黄蘗(名) 竹の葉のこぼれ。
すが(名) 黄蘗(名) 竹の葉のこぼれ。
すが(名) 黄蘗(名) 竹の葉のこぼれ。

すがたーすがひ

すがた(名) 委(名) 身の端。からだつき。
すがた(名) 委(名) 身の端。からだつき。
すがた(名) 委(名) 身の端。からだつき。

すがひーすがる

すがひ(名) 委(名) 身の端。からだつき。
すがひ(名) 委(名) 身の端。からだつき。
すがひ(名) 委(名) 身の端。からだつき。

すくも

すくも(種)名。もみかみか。すくも(名) 葉の根なりともいひ藤層(すくも)なり。すくも(名) 葉の根なりともいひ藤層(すくも)なり。すくも(名) 葉の根なりともいひ藤層(すくも)なり。

すけ

すけ(柱)名。家の傾き出る。すけ(柱)名。家の傾き出る。すけ(柱)名。家の傾き出る。すけ(柱)名。家の傾き出る。



すけ

すけ(助)名。助の心打つに力を加へて。すけ(助)名。助の心打つに力を加へて。すけ(助)名。助の心打つに力を加へて。

すざ

すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。



すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。

すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。

すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。



すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。

すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。すざ(名) 葉の根なりともいひ藤層(すざ)なり。

すざ

すざ

すざ

すざ

すづくすづく

すづくり(醸造)名 酢の製造又其類の人
すづくる(醸造)名 酢の製造又其類の人
すづく(醸造)名 食物などを酢に漬(く)ると
又酢に漬けたるもの
すつたもん(醸造)名 もんちやく、かつとう
もつれ、もつ



ステアリン(Stearin)名 (化)ステアリン酸の
グリセリルエステル類の総名
ステアリン酸(Stearic acid)名 (化)脂肪の含有する白色
の結晶性脂肪酸の総名
すてらり(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事

すてあすてら

すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事

すてねすてら

すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事

すてあすてら

すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事
すてら(捨賣)名 損益に頓着なく、いと安直
に賣る事

すなすな

すな(砂)名 極めて細かき石、まご、まごこ、い
まご、すな
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱

すなすな

すな(砂)名 極めて細かき石、まご、まごこ、い
まご、すな
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱

すなすな

すな(砂)名 極めて細かき石、まご、まごこ、い
まご、すな
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱

すなすな

すな(砂)名 極めて細かき石、まご、まごこ、い
まご、すな
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱

すなすな

すな(砂)名 極めて細かき石、まご、まごこ、い
まご、すな
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱
すな(少)接頭 古昔、同音の低き方の稱

すはや すひく

すはや(名) 星宿の二七星の集まりたるもの。七曜の星。一、(星) 星宿の二七星の集まりたるもの。すはら(名) 子(子)を象(象)にまねて、推測せむ。すはら(名) 子(子)を象(象)にまねて、推測せむ。すはら(名) 子(子)を象(象)にまねて、推測せむ。

すひこ すひも

すひこ(名) 吸物に添へて芳香を加ふる。すひこ(名) 吸物に添へて芳香を加ふる。すひこ(名) 吸物に添へて芳香を加ふる。すひも(名) 吸物に添へて芳香を加ふる。

すふ すふく

すふ(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。すふ(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。すふく(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。

すべす すべら

すべす(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。すべら(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。すべす(名) 吸(他)は四。吸(他)は四。吸(他)は四。

すべら すぼけ

すべら(名) すべらなる。又、すべらなる。すぼけ(名) すぼけなる。又、すぼけなる。すべら(名) すべらなる。又、すべらなる。すぼけ(名) すぼけなる。又、すぼけなる。

すぼし すまろ

すぼし(名) 日又は火に當てて乾燥す。すまろ(名) すまろなる。又、すまろなる。すぼし(名) 日又は火に當てて乾燥す。すまろ(名) すまろなる。又、すまろなる。

すまき すまひ

すまき(名) すまきなる。又、すまきなる。すまひ(名) すまひなる。又、すまひなる。すまき(名) すまきなる。又、すまきなる。すまひ(名) すまひなる。又、すまひなる。

すまふ すまみ

すまふ(名) すまふなる。又、すまふなる。すまみ(名) すまみなる。又、すまみなる。すまふ(名) すまふなる。又、すまふなる。すまみ(名) すまみなる。又、すまみなる。

すみーすみき

すみ(柄)名(組)こりんごの一種、黄色の質を結ぶ。材より結核を採る。
すみあか(隅赤)名(四邊を雲形の朱塗にしたるすみあらし)名(住先)名(自、三四)住みて居るす、住みて古くす。

すみくーすみつ

したる形。一、砂た(隅切下駄)名(登をすきりかくにしたる下駄。
すみくち(隅口)名(事の終はる所、結局の點)終局となりたる事件。

すみつーすみな

頃、金銀の積として用ひたる黒色の印又、其印のすわりたる文。
すみつぎ(墨櫃)名(文字を書くに、筆に合せたる墨汁を置くなり。更に墨汁をよくまると、すみつぎん(角頭巾)名(後、しにたこのるの如きたれのある頭巾、算水筒に行はれたるもの。)

すみのーすむ

すみのつか(墨柄)名(すみばきみ。
すみのぼ(墨)名(澄昇)名(自、三四)月遊(さ)すみのぼ(墨)名(澄昇)名(自、三四)月遊(さ)すみのぼ(墨)名(澄昇)名(自、三四)月遊(さ)

すむーすやせ

すむ(濟)名(自、三四)終はる、なる、はつ。
すむやせ(濟)名(自、三四)終はる、なる、はつ。
すむ(濟)名(自、三四)終はる、なる、はつ。

すやすーすりあ

すやす(其)名(副)解かによく解入るさまにいふ。
すや(其)名(副)解かによく解入るさまにいふ。
すや(其)名(副)解かによく解入るさまにいふ。

すりあーすりて

すりあがる(磨)名(自、三四)印刷出来る。
すりあがる(磨)名(自、三四)印刷出来る。
すりあがる(磨)名(自、三四)印刷出来る。

すりあーすりび

すりあ(修理)名(名)高よりまきに同じ。
すりあ(修理)名(名)高よりまきに同じ。
すりあ(修理)名(名)高よりまきに同じ。

するさき—するさく

くは既粉砕となりて現出す、所謂計測器設計等の諸
器機其他種々の製造に使用せらる。——くろく
ポンプ(名)水銀空気脚筒——Mercury air
pump(名)水銀を長く管中に流下し又は
長き管に入れ管を下して管中の空気を排除す
る装置のポンプ。スプリングル水銀空気脚筒は
其の一なり。

するさき—するさき

其一部は外方に抽出して、移動的作用をなす。
(するさき)水車(名)水上のいさよ、よなで、海
(するさき)水刑(名)みづせめ。
(するさき)垂懸(名)さげがら。
(するさき)垂懸(名)をしへをたる、とを
しよる。

するさき—するさき

(するさき)水草(名)水中又は水邊に生
ずる草。みづくさ(水藻)。水と草とをいひて
(するさき)水葬(名)水中に死骸を葬じむ
(するさき)水槽(名)みづぶね。
(するさき)水品(名)みづぶねやうの古稱。
(するさき)水品(名)みづぶねやうの古稱。
(するさき)水品(名)みづぶねやうの古稱。
(するさき)水品(名)みづぶねやうの古稱。
(するさき)水品(名)みづぶねやうの古稱。

するさき—するさき

産物(名)水中に生産するもの。
(するさき)水酸化カルシウム(名)水酸化カルシウム
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状
(名)無定形の白色塊状

するさき—するさき

(するさき)炊事(名)食物のたき。
(するさき)推辭(名)他人に譲りて自らはこと
(するさき)炊事掛(名)炊事を監督支配
するもの。
(するさき)炊事掛(名)炊事を監督支配
するもの。
(するさき)炊事掛(名)炊事を監督支配
するもの。
(するさき)炊事掛(名)炊事を監督支配
するもの。
(するさき)炊事掛(名)炊事を監督支配
するもの。

するさき—するさき

(するさき)垂迹(名)佛の未受戒者の
ために、因果に到達すべき教義を示しよると、
(名)佛が衆生度脱のために、本地より來りて、權の
身を現すといふ。
(するさき)垂迹(名)佛の未受戒者の
ために、因果に到達すべき教義を示しよると、
(名)佛が衆生度脱のために、本地より來りて、權の
身を現すといふ。

するさき—するさき

(するさき)垂心(名)三角の各項點より
其各對邊に引く三つの垂線は同一點を過ぐ、其同一
點を垂心といふ。
(するさき)垂心(名)三角の各項點より
其各對邊に引く三つの垂線は同一點を過ぐ、其同一
點を垂心といふ。



〔二〕んまみず

するさき—するさき

(するさき)垂星(名)天の長光星を引く且
長き軌道を行く星、或は周期的といひ或は一度
現はるれば再び現はる星といふ。
(するさき)垂星(名)天の長光星を引く且
長き軌道を行く星、或は周期的といひ或は一度
現はるれば再び現はる星といふ。

するせ—するた

するせん 垂線(名) 一の直線又は平面と直角をなす直線即ち垂線なる線。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 垂選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。
するせん 推選(名) おしうつと。

するた—するた

するた 水飛(名) 粉の細末を待たせ、先づ粉を水に澄まし、その沈みたる粗部分を除き去りて、うはすかの中を漉し、漉しを沈澱せしめ、これを乾かして出す。
するた 水飛(名) 粉の細末を待たせ、先づ粉を水に澄まし、その沈みたる粗部分を除き去りて、うはすかの中を漉し、漉しを沈澱せしめ、これを乾かして出す。

するち—するて

するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。
するち 推知(名) かしはかり知ると。

するて—するは

するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。
するて 水天(名) 水と天と。



〔二〕てあす

するは—するは

するは 醉罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 醉罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 醉罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。
するは 酔罵(名) 酒にまひて人をのしる。

するひ—するは

するひ 水飛(名) 粉の細末を待たせ、先づ粉を水に澄まし、その沈みたる粗部分を除き去りて、うはすかの中を漉し、漉しを沈澱せしめ、これを乾かして出す。
するひ 水飛(名) 粉の細末を待たせ、先づ粉を水に澄まし、その沈みたる粗部分を除き去りて、うはすかの中を漉し、漉しを沈澱せしめ、これを乾かして出す。

するへ—するみ

するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。
するへ 水天(名) 水と天と。

するみ—するら

するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。
するみ 水天(名) 水と天と。

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 風守府に屬し、水雷の保存供給等を掌る所。...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 土功に關する事業にして、利害關係上市町村若しくは町村組合の事業となすを得ざる場合に設置せらるる組合の組織にして、普通水利組合と水害防禦組合とを兼ね見るとあれど、...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 幼帝に代りて政治を掌るべきとす。...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 是れを以て、相手の急處を斷つてに、...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 土功に關する事業にして、利害關係上市町村若しくは町村組合の事業となすを得ざる場合に設置せらるる組合の組織にして、...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 幼帝に代りて政治を掌るべきとす。...

すろりーすろり

すろりーすろり (名) 是れを以て、相手の急處を斷つてに、...

せせ

せせ (名) 是れを以て、相手の急處を斷つてに、...

せせ

せせ (名) 是れを以て、相手の急處を斷つてに、...

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいしん

(せいしん) 正眼 (名) 斜視にて、敵の眼を射すに
して、剣の穂先を穂のよると。
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣
(せいしん) 正氣 (名) 至高に大なる天地の元氣

せいぞろい

に、債権又は債務の取立又は他種債務の取立を... (せいぞろい) 債権又は債務の取立又は他種債務の取立を...

せいぞろい

(せいぞろい) 聖旨[名] 主上のおぼしめし。 (せいぞろい) 世子[名] 貴人の嫡子大君の世嗣...

せいぞろい

(せいぞろい) 製紙[名] ちかひのことば。 (せいぞろい) 生子[名] うまれたる子。 (せいぞろい) 制止[名] ちかひのことばを記したる...

せいぞろい

(せいぞろい) 誠實[名] いっはりなまこと。 (せいぞろい) 世襲[名] 財産位若しくは職務等...

せいぞろい

(せいぞろい) 正射影[名] 一若しくは一を順次に加へて成れる数。 (せいぞろい) 聖主[名] 聖明なる君主。 (せいぞろい) 聖主[名] 聖明なる君主。

せいぞろい

(せいぞろい) 正開[名] 半年と同年と。 (せいぞろい) 正開[名] 半年と同年と。 (せいぞろい) 正開[名] 半年と同年と。

せいぞろい

(せいぞろい) 正信[名] たゞしき信仰。 (せいぞろい) 正信[名] たゞしき信仰。 (せいぞろい) 正信[名] たゞしき信仰。

せいぞろい

(せいぞろい) 正数[名] 一若しくは一を順次に加へて成れる数。 (せいぞろい) 正数[名] 一若しくは一を順次に加へて成れる数。 (せいぞろい) 正数[名] 一若しくは一を順次に加へて成れる数。

せいとーせいと

は鏡を複製し、若しくは鏡を以て器具器械などを製

造する。一、素よ、製鏡所(名) 製鏡の作

業をなす所。

(せいとん)晴天(名) 空の晴れたりたる

(せいとん)青天(名) あまぞら、蒼天

(せいとん)成典(名) さだまりたる法則きまり

てある式(副名)

(せいとん)聖典(名) 「せいけい」聖經に同じ

(せいとん)盛典(名) 盛大なる儀式

(せいとん)正殿(名) もとて御殿

(せいとん)井田(名) 変形の上代、一里四方即ち

九百畝の田地を井字形に區劃して九分したるもの

一、稱、其一區百畝を一家に給し、中央の田を公田と

し、周囲の田を受けたる八家のもの、かはるごと

これを耕作して、其收穫を租税としたり

(せいとん)世傳(名) 世々相つたると

(せいとん)聖殿(名) 神を祭る殿たよとき殿

(せいとん)聖天子(名) 聖徳高き天子

(せいとん)正電氣(名) 「てん」やうてんき、電

氣に同じ

(せいとん)靜電氣(名) 「てん」摩撻したる物

體などの帶する電氣、動電氣の對

(せいとん)青天白日(名) よく晴

れたりたる日和(名) 世間晴れてすこしとも

ある所なきと、いさ、かもうしろ、ら所なきと、

せいとん、へせれん晴天(晴天) 「は

たる空に起るかみりの雲突然に起りたる變動又

は急遽に生じたる打撃などにいふ語

(せいとん)生徒(名) 學校又は家塾其他一定の

場所にて教を受くる人、(帝國大學の) 國科生の特

(せいとん)星斗(名) はし、「一」星斗、

せいとーせいと

(せいとん)征途(名) 出征の路、又、旅行の路

(せいとん)世途(名) 「せいと」世路に同じ

(せいとん)制度(名) 制定せられたる法律、もてて

(せいとん)西土(名) せいと、たいせい、のり

(せいとん)盛冬(名) 冬のまさかり

(せいとん)齊等(名) ひとしき、そひたる

(せいとん)正統(名) 正しき系統

(せいとん)成童(名) 年齢十五歳に達したる者

(せいとん)青銅(名) カラ、あをさし

(せいとん)青銅器(名) 青銅を材料として製

造したる器具、一、本、た、青銅器時代、名

石器時代より人智進歩し、青銅を用ひて器具、器械

を製するに至りたる時代、この時代より進歩して鐵

器時代となる

(せいとん)やま(名) 齊東野人(名) 孟子に出

づものを知らぬもの、一、の、齊東

野人話(名) もを知らぬもの、とりぞ

(せいとん)聖徳(名) 天子の御徳

(せいとん)盛徳(名) 廣大なる徳

(せいとん)盛徳(名) と、の、みと、又、と、

(せいとん)西南(名) にしのみ

(せいとん)生乳(名) さまのち、あたら

(せいとん)生肉(名) なまの肉、あたらしき肉

(せいとん)青肉(名) 青色の肉、

(せいとん)贅肉(名) 餘分の肉、

(せいとん)靜寧(名) 世の中のやすらかにま

(せいとん)生年(名) うまれどし、「一日」

(せいとん)生年(名) うまれどし、「一日」

(せいとん)生年(名) うまれどし、「一日」

(せいとん)生年(名) うまれどし、「一日」

(せいとん)生年(名) うまれどし、「一日」

せいとーせいと

(せいとん)成年(名) 一般に人の知識身體が発

全なる發達をなすと見えたる、年齢、我國現行

法にては、天皇皇太子皇太孫は満十八歳を以て成

年とし、其他の皇族及一般臣民は満二十歳を以て成

年とする

(せいとん)盛年(名) わかざかり、「不再來」

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

(せいとん)青年(名) としわかもの、わか

せいとーせいと

(せいとん)正法(名) たゞしきり

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

(せいとん)政法(名) まつりごととわきて

せいとーせいと

せいとーせいと

せいとーせいと

せいとーせいと

せいとーせいと

せいわいせりあ

(せいゐる) [正位] (名) たゞしきくち。
(せいゐる) [勢威] (名) むくわう。いさほひ。
(せいゐる) [星位] (名) 天空に於ける星の位置。
(せいゐる) [星位表] (名) 天の星の位置を大いさ色で表したる星位表を記したる表。
(せいゐる) [西域] (名) 支那より中央アジアの邊を指していふ語。

せりいせりら

(せりい) [宵衣] (名) 人君が政治に志を傾け服を惜み朝早く正服を召したる事。
(せりい) [小異] (名) すこしくことなる事。
(せりい) [熨熨] (名) やきはらふ事。
(せりい) [消憂] (名) うさばらし。きばらし。
(せりい) [少輔] (名) せうさふ。きばらし。
(せりい) [小遊星] (名) 天の火星と木星との間にありて、太陽の周囲を運行する小まき星。今日迄に発見せられたる数は七百餘個あり。
(せりい) [小飲] (名) 小人数のさかもり。ちよつとしたさかもり。
(せりい) [招飲] (名) まねきよせて酒をくむ事。
(せりい) [小引] (名) ちよつとしたはしがき。
(せりい) [小雨] (名) すこしくふるあめ。
(せりい) [小宇宙] (名) 宇宙の一部。分ちして宇宙の狀態若しくは意義を顯現するもの。即ち人間の病。

せりかせりか

(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。
(せりか) [小詞] (名) 小まきはやふね。

せりかせりさ

(せりか) [行李] (名) 軍隊の戦闘間に必要なる軍需品。
(せりか) [少類] (名) はげしくきびしき事。
(せりか) [少類] (名) たかのすくなき事。
(せりか) [小學] (名) 小兒をせしめしむる學問。小兒の學問をまなびならふ場所。小學校の略言。一教員。一「かろ」(小學校) (名) 兒童の身體の發達に留意して、道徳の基礎及其生活に必要なる知識技能を授けんとす本旨となす學校。即ち初等教育を施す學校の略にして、學齡兒童の就學する所。一「けうい」(小學教育) (名) 小學校に於て施行する教育即ち初等教育。一「せう」(小學兒童) (名) 小學校に入學してあるこども。一「せいと」(小學程度) (名) 小學校に於て施行する教育の程度。又小學生の普通に有する學力の程度。
(せりか) [消渴] (名) のど渴して流動物を飲まざりて、小便の通ぬ病氣。かちのやまひ。一「せりか」(消渴) (名) 病氣の略。

(せり) [燒燬] (名) やきやぶつと。やきはらふ事。
(せり) [笑氣] (名) [化] 硝酸化素に同じ。
(せり) [沼氣] (名) [化] 沼澤の底より發する可燃性の氣體。即ちメタンの通稱。一「せり」(沼氣) (名) 小なるうづ。又、小なるうづ。一「せり」(沼氣) (名) つまらぬわざとつと。一「せり」(沼氣) (名) はんぎよ。うづ。
(せり) [招求] (名) まねきよとむ事。まねきたる事。
(せり) [小勇] (名) こゆうと。
(せり) [小休] (名) こやすみ。
(せり) [小企業] (名) [經] 企業家が労働者を兼ねるか若しくは多少の助手を便投してなす企業。一「せり」(小企業) (名) 客をまねくと。又、まねきたる事。
(せり) [消却] (名) しょうじやくと。一「せり」(消却) (名) きこりとれふ事。
(せり) [消極] (名) しょうきやくと。一「せり」(消極) (名) 積極の對にして、退くと若しくは責任・否定等を表する語。一「せり」(消極義務) (名) 他人の財産を侵害せざる義務。即ち不行爲の義務。一「せり」(消極主義) (名) 義務又は他人の榮譽を損ざる義務等これなり。一「せり」(消極主義) (名) 禁慾主義又は退嬰主義若しくは保守主義等の稱。
(せり) [消極的] (形) 物事の消極

(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極
(せり) [消極的] (形) 物事の消極

(せり) [消火器] (名) 火災をけすに用ふる要中に水を噴出し、燃焼の作用によりて器中の水の飛散する装置なるもの。されどこれを使用して効力あるは、火災の極めて微小なる場合に限定したる。これを取除きて、其口を噴射器に接続したる。水を噴射して、消火の用となす。一「せり」(消火器) (名) 水道の鑄造汽脚筒。一「せり」(消火器) (名) 押上噴筒とを備へたる。一「せり」(消火器) (名) 汽脚筒より出づる液体は、噴筒の括弧に連絡す、よりて烈しく噴水せしむるを得。
(せり) [小會] (名) 小人数の集會。
(せり) [照會] (名) 長老の會の稱。一「せり」(照會) (名) とひあはせ。かけり。
(せり) [招會] (名) まねきあつむる事。
(せり) [小塊] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [消光] (名) 日をくらすと。年月をわたる事。
(せり) [照光] (名) あきらかなるひか。
(せり) [小官] (名) 位ひくき官。
(せり) [召喚] (名) よびまねくと。
(せり) [召喚] (名) 官より私人を一定の場所に出頭せしむる事。よびだし。一「せり」(召喚) (名) 召喚の命令書。よびだし書やう。



(せり) [小官] (名) 下官が上官に對して用ふる自己の謙稱。
(せり) [小選] (名) こまら。一「せり」(小選) (名) 幼年のこづかひ。まよ。
(せり) [小計] (名) 一部分の合計。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。
(せり) [少類] (名) ちひさきかたまり。

せりぢーせりぢ

て消化作用を替み、不用物質を大腸に送る。
(せりぢーぢー) [笑中] (名) わらふ顔又は心の
中、一たりあり [笑中有刀] うはははははま
しけれど、内陰険にして心事の刻み難きにいふよ
(せりぢーぢー) [少女] (名) 年わかき女をいふよ
(せりぢーぢー) [小豆] (名) 天子のみことのり
(せりぢーぢー) [小豆] (名) 天子のみことのり
(せりぢーぢー) [小豆] (名) 天子のみことのり

(せりぢーぢー) [小敵] (名) 少人数の敵、まよ、まよ
(せりぢーぢー) [沼鐵] (名) 沼鐵、沼鐵、沼鐵
(せりぢーぢー) [沼鐵] (名) 沼鐵、沼鐵、沼鐵
(せりぢーぢー) [沼鐵] (名) 沼鐵、沼鐵、沼鐵

(せりぢーぢー) [兄人] (名) せいとこの音便あり。
(せりぢーぢー) [照度] (名) 照度、照度、照度
(せりぢーぢー) [照度] (名) 照度、照度、照度
(せりぢーぢー) [照度] (名) 照度、照度、照度

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [秒冬] (名) 冬のなほ、冬のなほ
(せりぢーぢー) [秒冬] (名) 冬のなほ、冬のなほ
(せりぢーぢー) [秒冬] (名) 冬のなほ、冬のなほ

(せりぢーぢー) [消毒室] (名) 消毒室、消毒室
(せりぢーぢー) [消毒室] (名) 消毒室、消毒室
(せりぢーぢー) [消毒室] (名) 消毒室、消毒室

(せりぢーぢー) [小兒科] (名) 小兒科、小兒科
(せりぢーぢー) [小兒科] (名) 小兒科、小兒科
(せりぢーぢー) [小兒科] (名) 小兒科、小兒科

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱
(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱
(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱

(せりぢーぢー) [小農地] (名) 小農地、小農地
(せりぢーぢー) [小農地] (名) 小農地、小農地
(せりぢーぢー) [小農地] (名) 小農地、小農地

(せりぢーぢー) [消防] (名) 消防、消防
(せりぢーぢー) [消防] (名) 消防、消防
(せりぢーぢー) [消防] (名) 消防、消防

せりぢーせりぢ

自己の慾望を満足せしむるために、財を使用し
て、其全部又は一部の形體又は組織を變更し若し
は消耗して、其効用を減却せしむると、分つて生
産の結果を生ずる消費といふ例へば金銭を支出し
て商品を買入る、が如き例へば生産的とは
生産の結果を生ずる消費をいふ例へば金銭を消
費して買入るが如き例へば消費的といふ例へば

(せりぢーぢー) [消費] (名) 消費、消費
(せりぢーぢー) [消費] (名) 消費、消費
(せりぢーぢー) [消費] (名) 消費、消費

(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界
(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界
(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [樞夫] (名) きり、きり
(せりぢーぢー) [樞夫] (名) きり、きり
(せりぢーぢー) [樞夫] (名) きり、きり

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [消滅] (名) 消滅、消滅
(せりぢーぢー) [消滅] (名) 消滅、消滅
(せりぢーぢー) [消滅] (名) 消滅、消滅

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱
(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱
(せりぢーぢー) [焦熱] (名) 焦熱、焦熱

せりぢーせりぢ

(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界
(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界
(せりぢーぢー) [世界] (名) 世界、世界

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきい

せきい (名) せきい (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ... (せきい) (名) せきい (名) ...

せきすーせきた

部分中に在りて、腰に懸る神懸中極、灰白色の細胞と繊維とより成りたる様状のもの。一、あんなけい(脊髄神經)名。脊髄より支出して、腰脚四肢の各所に分布する運動神經及知覚神經の病、人類のは三十一對あり、前後二個の根ありて、支出するときは區別あれど、根を合して一ととなり、末梢に到りて更にまた分枝す。

せきたーせきた

赤道の北緯、南緯の度。赤道は地球の赤道に對し、北緯、南緯の度を示す。赤道は地球の赤道に對し、北緯、南緯の度を示す。赤道は地球の赤道に對し、北緯、南緯の度を示す。

せきたーせきち

急立(他、た下)うながす。急立(他、た下)うながす。急立(他、た下)うながす。急立(他、た下)うながす。急立(他、た下)うながす。

せきちーせきぶ

石竹(名)「石竹科に属する草葉は狭葉針形にして、茎下の葉は尖形して長く、花は大形にして色種々あり、花の頭は齒牙状に分裂す、觀賞用として廣く栽培せらるるカラナダシ。

(せきどく)「積毒」名。毒を積りむと、又積りたる毒「一」名。毒を積りたる毒「一」名。毒を積りたる毒「一」名。毒を積りたる毒「一」名。

(せきばつ)「席末」名。せきまじに同じ。せきばつ(席末)名。せきまじに同じ。せきばつ(席末)名。せきまじに同じ。

(せきへい)「尺兵」名。せきてつ(尺兵)に同じ。せきへい(尺兵)名。せきてつ(尺兵)に同じ。せきへい(尺兵)名。せきてつ(尺兵)に同じ。

(せきめん)「石門」名。石材にてつくりたるもの。いしめん(石門)名。石材にてつくりたるもの。いしめん(石門)名。石材にてつくりたるもの。

せき区ーせきは

せきはーせきふ

せきふーせきむ

せきむーせきり

せきりーせきり

せつがーせつが

(せつがい) 殺害 (名) 人を殺し害する。
(せつがい) 絶海 (名) とくく陸地をはなれたる海。
(せつがい) 絶涯 (名) きりきりし。
(せつがかり) 駕行 (名) 駕中を行く。
(せつがかり) 攝行 (名) 代はりて事を行ふ。
(せつがかり) 絶交 (名) 交際を絶つ。
(せつがかり) 絶好 (名) 前後に同じ。
(せつがかり) 舌耕 (名) 舌舌によりて生活を立てゆく。
(せつがかり) 絶角 (名) 極めてたぐみ。
(せつがかり) 絶巧 (名) 極めてたぐみ。
(せつがかり) 絶容 (名) 容顔を絶つ。
(せつがかり) 絶角 (名) 極めてたぐみ。
(せつがかり) 絶容 (名) 容顔を絶つ。
(せつがかり) 絶角 (名) 極めてたぐみ。
(せつがかり) 絶容 (名) 容顔を絶つ。

せつかーせつは

(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。
(せつかふる) 切甲類 (名) 切甲類の類。

せつはーせつは

(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。
(せつは) 説經 (名) 説經の類。

せつけーせつり

(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。
(せつけ) 絶家 (名) 絶家の類。

せつこーせつお

(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。
(せつこ) 拙工 (名) うてまのつたなき工匠。

せつおーせつお

(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。
(せつお) 綴字 (名) 字をつつと。

せつおーせつお

(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。
(せつお) 節酒 (名) 飲酒の量。

せつすーせつせ

(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。
(せつす) 接 (名) 接の類。

せつせーせつた

〔せつせ〕〔副〕いもぎはたらきて、たえまなくはたかして。
〔せつせん〕〔接戦〕〔名〕よりちかづきて、かふと、つめよめて、かよとてづめた、かひ。
〔せつせん〕〔切線〕〔名〕曲線又は表面の成一點に觸れ、且其點の附近に於て、此曲線又は表面の一方にある直線の稱。例へば圓周又は球面への切線の如し。
〔せつせん〕〔折線〕〔名〕「折線」を異にする別々の直線の連続したるもの。
〔せつせん〕〔雪線〕〔名〕「地海面上四時雪を見る高所の境界線」其位置は赤道に於て最も高く、高緯度に至るに従ひて低す。

せつたーせつた

〔せつた〕〔名〕竹の皮の草履の裏に半の皮を縫けたるもの、雪踏に用ひたるものといふ。
〔せつた〕〔接待〕〔名〕あひらひ、もてなし。
〔せつた〕〔設題〕〔名〕問題又は題目をまうくること。又、其まうけたる問題又は題目。
〔せつた〕〔絶対〕〔名〕何等の條件も附随せざること。何ものにも附随せられず、又何ものにも依らざること。
〔せつた〕〔絶対〕〔名〕他に對立するものなきこと。
〔せつた〕〔絶対〕〔名〕他に對立するものなきこと。
〔せつた〕〔絶対〕〔名〕他に對立するものなきこと。
〔せつた〕〔絶対〕〔名〕他に對立するものなきこと。

せつたーせつち

〔せつた〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつた〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつた〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつた〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。

せつちーせつと

〔せつち〕〔雪〕〔名〕雪の降る中、又雪の積もつた中、一に積を投ぐ、一かちん、雪中行軍の、雪中に於ける軍隊の行軍。
〔せつちん〕〔雪隠〕〔名〕せつちんの稱。
〔せつちん〕〔雪隠〕〔名〕せつちんの稱。
〔せつちん〕〔雪隠〕〔名〕せつちんの稱。
〔せつちん〕〔雪隠〕〔名〕せつちんの稱。

せつせーせつは

〔せつせ〕〔副〕いもぎはたらきて、たえまなくはたかして。
〔せつせん〕〔接戦〕〔名〕よりちかづきて、かふと、つめよめて、かよとてづめた、かひ。
〔せつせん〕〔切線〕〔名〕曲線又は表面の成一點に觸れ、且其點の附近に於て、此曲線又は表面の一方にある直線の稱。例へば圓周又は球面への切線の如し。
〔せつせん〕〔折線〕〔名〕「折線」を異にする別々の直線の連続したるもの。
〔せつせん〕〔雪線〕〔名〕「地海面上四時雪を見る高所の境界線」其位置は赤道に於て最も高く、高緯度に至るに従ひて低す。

せつはーせつは

〔せつは〕〔切羽〕〔名〕刀の刃の両面の柄の柄と柄との間に當る部分に當る金物。
〔せつは〕〔切羽〕〔名〕刀の刃の両面の柄の柄と柄との間に當る部分に當る金物。
〔せつは〕〔切羽〕〔名〕刀の刃の両面の柄の柄と柄との間に當る部分に當る金物。
〔せつは〕〔切羽〕〔名〕刀の刃の両面の柄の柄と柄との間に當る部分に當る金物。

せつはーせつめ

〔せつは〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつは〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつは〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつは〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。

せつめーせつれ

〔せつめ〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつめ〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつめ〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。
〔せつめ〕〔絶命〕〔名〕體も命もきはまる絶望の、手段なき大絶望の場合。

せつろーせどう

(せつろ) [拙陋] (名) つたなくしていやしきと、
(せつろ) [拙劣] (名) 劣子に代はりて教を執る
(せつろ) [拙者] (名) 劣子に代はりて教を執る
(せつろ) [拙者] (名) 劣子に代はりて教を執る
(せつろ) [拙者] (名) 劣子に代はりて教を執る

せなーせに

(せな) [兄] (名) 兄又は男を女より親み呼びし詞
(せな) [兄] (名) 兄又は男を女より親み呼びし詞
(せな) [兄] (名) 兄又は男を女より親み呼びし詞
(せな) [兄] (名) 兄又は男を女より親み呼びし詞

せにーせは

(せに) [地盤] (名) 植物叢地に生ず、扁平にして縁色を帯び、鐘形の軟
(せに) [地盤] (名) 植物叢地に生ず、扁平にして縁色を帯び、鐘形の軟
(せに) [地盤] (名) 植物叢地に生ず、扁平にして縁色を帯び、鐘形の軟
(せに) [地盤] (名) 植物叢地に生ず、扁平にして縁色を帯び、鐘形の軟

せばしーせひや

(せばし) [狭] (形) 二つづつをなす、廣から
(せばし) [狭] (形) 二つづつをなす、廣から
(せばし) [狭] (形) 二つづつをなす、廣から
(せばし) [狭] (形) 二つづつをなす、廣から

(せひら) [脊開] (名) 魚を脊より開きひろくと、
(せひら) [脊開] (名) 魚を脊より開きひろくと、
(せひら) [脊開] (名) 魚を脊より開きひろくと、
(せひら) [脊開] (名) 魚を脊より開きひろくと、

(せふら) [背骨] (名) 骨の脊上の總稱、
(せふら) [背骨] (名) 骨の脊上の總稱、
(せふら) [背骨] (名) 骨の脊上の總稱、
(せふら) [背骨] (名) 骨の脊上の總稱、

(せむし) [區使] (名) 骨の脊上の總稱、
(せむし) [區使] (名) 骨の脊上の總稱、
(せむし) [區使] (名) 骨の脊上の總稱、
(せむし) [區使] (名) 骨の脊上の總稱、

(せめ) [攻口] (名) 骨の脊上の總稱、
(せめ) [攻口] (名) 骨の脊上の總稱、
(せめ) [攻口] (名) 骨の脊上の總稱、
(せめ) [攻口] (名) 骨の脊上の總稱、

せんけーせんけ

(せんけり) 善巧 (名) 巧みなること。うまき。
(せんけり) 善巧 (名) 巧みなること。うまき。
(せんけり) 善巧 (名) 巧みなること。うまき。

せんけーせんこ

(せんけん) 前件 (名) 前にあるべき条件。
(せんけん) 全権 (名) 十分の権力。一切の権限。
(せんけん) 前官 (名) 前にあるべき官職。

せんこーせんこ

(せんこ) 全月 (名) 一年中のこと。
(せんこ) 前後 (名) 前後の順序。
(せんこ) 善後 (名) 後日のためによくはかるとのこと。

せんこーせんざ

(せんこ) 骨 (名) 骨。
(せんこ) 骨 (名) 骨。
(せんこ) 骨 (名) 骨。



【しほごんせ】

せんぎーせんぎ

(せんぎ) 千歳 (名) 千年。千歳。
(せんぎ) 前栽 (名) 家の前にある庭園。
(せんぎ) 剪裁 (名) 剪ること。



せんぎーせんぎ

(せんぎ) 戦史 (名) 戦争の歴史。
(せんぎ) 戦死 (名) 戦場において死すこと。
(せんぎ) 戦士 (名) 戦う者。

せんぎーせんぎ

(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。
(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。
(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。

せんぎーせんぎ

(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。
(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。
(せんぎ) せんせい (千歳萬歳) (名) 千歳、万歳。

せんぞーせんた

(せんぞく) 專屬(名) もっぱら附屬する。...

せんたーせんた

せんたいはき(千代萩)(名) 仙臺米に属する...

せんたーせんた

せんた(洗濯)(名) あらひきよむこと。...

せんたーせんち

(せんたん) 専断(名) 自分一口の意見を以ては...

せんちーせんち

(せんち) 善智識(名) よく人をみちびきて...

せんちーせんて

せんち(戦塵)(名) 戦場に起るちり。...

せんてーせんて

(せんて) 先哲(名) 先賢の哲人。...

せんてーせんて

(せんて) 戦艦(名) 海軍艦船の一種。...



せんた



せんた

せんざーせんじ

(せんざー) 仙洞御所(名) 「せんざー」(仙洞)に同じ。

(せんざく) 宣徳(名) 支那の明の宣徳年中に製

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) ひそかくる。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

(せんざく) 占得(名) 占め取る。

せんじーせんば

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

(せんじー) 先入(名) 以前に心に入りたる

せんばーせんば

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

(せんばー) 専賣(名) 其の一手にて或品物を

せんばーせんび

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

(せんばー) 船泊(名) 其の船が日本の國籍に屬

せんびーせんぶ

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

(せんび) 賤卑(名) いやしきと、げびたる。

せんぶーせんぶ

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

(せんぶ) 全部(名) 其の全體。

せんぶーせんば

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

(せんぶ) 前文(名) 前に記したる文章。

せんばーせんば

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。

(せんば) 戦艦(名) 戦艦の類。



きうぶんせ



りかばいせんぶ

せんまーせんめ

(せんま) 千萬(名) 副「せんまんに」に同じ。
(せんま) 千無量(名) 數のほかにあらはれぬ。
(せんま) 鮮味(名) あたらしく料理、あたらしく...

せんめーせんめ

(せんめ) 前面(名) おもての方、又、まへの方。
(せんめ) 専門(名) 一つの學科又は事務のみをもつて研究又は修業する。
(せんめ) 専門家(名) 其學科又は事務をもつて研究又は修業する人。

せんゆーせんり

(せんゆ) 穿窬(名) 壁に穴をあけ又は竊などを越えて、家にひそみ入る。
(せんゆ) 僧徒(名) 分際以上の事をすると。
(せんゆ) 淫徳(名) やまひのなほると。

せんりーせんり

(せんり) ひん(戦利品) 名 戦中にて分捕したる品物、分捕品。
(せんり) 専領(名) 一己にて領有する。
(せんり) 占領(名) 或一定の場所に據りて他の侵入を許さずと。

せんりーせんれ

(せんり) 淺緑(名) うすみどり。
(せんり) 全力(名) あちんかぎりの力、全體の力。
(せんり) 閃綠岩(名) 閃光を放つ。
(せんり) 善隣(名) 隣家又は隣國とまじはり...

せんれーせんろ

(せんろ) 前脚(名) 漢詩の律にて、第三第四の兩對句、後脚の對。
(せんろ) 船路(名) 船の道路、ふなぢ、航路。
(せんろ) 船路(名) 船のすぢ、鐵道の。
(せんろ) 仙遊(名) いやしきと、げすなると。

せんろーそぞ

そぞ 齒的摩擦音、即ち舌端を硬口蓋の前部に摩擦して摩擦せしむる音と、母音「そ」の摩擦音。
(そぞ) 全院委員長(名) 全院委員の長、一會期ごとに開會の始めにこれを選舉するものとす。
(そぞ) 骨感(名) 骨の硬さをいふ。

そぞーそぞ

その 齒的摩擦音、即ち舌端を硬口蓋の前部に摩擦して摩擦せしむる音と、母音「そ」の摩擦音。
(そぞ) 骨感(名) 骨の硬さをいふ。
(そぞ) 骨感(名) 骨の硬さをいふ。

そりーそり

ソリス(石) (名) 酸味を帯びて鹹味ある一種の...
ソリダ(曹達) (名) 化(酸)ナトリウム...
ソリダ(曹達) (名) 化(酸)ナトリウム...
ソリダ(曹達) (名) 化(酸)ナトリウム...

そりーぞりあ

出家比丘 (名) 僧侶に入りて、其修業進等...
そり (名) 帝王に申しあげると、音韻を...
そり (名) 帝王に申しあげると、音韻を...
そり (名) 帝王に申しあげると、音韻を...

そりあーそりか

ソウあん(僧庵) (名) 僧のすむいはり...
ソウい(僧衣) (名) 僧の着る服...
そりい(總意) (名) 全體共通の意思...
そりい(總意) (名) 全體共通の意思...

そりがーそりき

そりがかり(總掛) (名) 一同のものが擔力して...
そりかく(總角) (名) あげまき、つのがみ...
そりかく(總角) (名) あげまき、つのがみ...
そりかく(總角) (名) あげまき、つのがみ...

そりきーぞりく

を述るかはりにある手形の稱...
(ぞりきん) (増金) (名) 代價などをますと...
(ぞりきん) (増金) (名) 代價などをますと...
(ぞりきん) (増金) (名) 代價などをますと...

そりきーそりき

(そりきん) (總軍) (名) 其軍全體...
(そりきん) (總軍) (名) 其軍全體...
(そりきん) (總軍) (名) 其軍全體...
(そりきん) (總軍) (名) 其軍全體...

そりきーそりき

なす、たつのおとしごこれに属す...
(そりきん) (送葬) (名) 死者のなきかはら...
(そりきん) (送葬) (名) 死者のなきかはら...
(そりきん) (送葬) (名) 死者のなきかはら...

そりきーそりき

そりきん(宗十郎頭巾) (名) 宗十郎頭巾...
(そりきん) (宗十郎頭巾) (名) 宗十郎頭巾...
(そりきん) (宗十郎頭巾) (名) 宗十郎頭巾...
(そりきん) (宗十郎頭巾) (名) 宗十郎頭巾...

そりあーそりせ

(そりあ) 宗主(名) 宗もいとも、つかさ、(そりあ) 宗主(名) 宗もいとも、つかさ、(そりあ) 宗主(名) 宗もいとも、つかさ、

そりせーそりた

(そりせつ) 説説(名) 説説をいふたもの、(そりせつ) 説説(名) 説説をいふたもの、(そりせつ) 説説(名) 説説をいふたもの、

そりたーそりづ

(そりた) 總代(名) 人員全部の代、(そりた) 總代(名) 人員全部の代、(そりた) 總代(名) 人員全部の代、

そりづーそりは

(そりづ) 案山子(名) 案山子(名) 案山子(名)、(そりづ) 案山子(名) 案山子(名) 案山子(名)、(そりづ) 案山子(名) 案山子(名) 案山子(名)、

そりばーそりべ

(そりば) 層倍(接尾) 僧数をいふ、(そりば) 層倍(接尾) 僧数をいふ、(そりば) 層倍(接尾) 僧数をいふ、

そりべーそりよ

(そりべつ) 總別(副) およそ、すべて、(そりべつ) 總別(副) およそ、すべて、(そりべつ) 總別(副) およそ、すべて、

そりよーそりろ

(そりよ) 總管(名) 僧の家族一同をいふ、(そりよ) 總管(名) 僧の家族一同をいふ、(そりよ) 總管(名) 僧の家族一同をいふ、

そりろーそりく

(そりろ) 叢論(名) いろいろの論をいふ、(そりろ) 叢論(名) いろいろの論をいふ、(そりろ) 叢論(名) いろいろの論をいふ、

そがひそが

そがひ(背向)名 背向(背向)の意。うしろの
方。背向。
そがひ(退)名 物のすゝ、物のほて。
そがひ(粉)名 木を薄くそぎたる板、屋根などを
つくるときに用いる。粉、粉を指す。
そがひ(疏義)名 意義のときあかし、註解。
そがひ(副)名 副、副。
そがひ(避及)名 既往に及ぶ、さかのぼり
て影響ある。一りよく「避及力」名(法)
新に制定發布せられたる法律が、其制定發布以前に
於ける事項に對して其適用を及ぼす力。
そがひ(疎義)名 意義のときあかし、註解。
そがひ(副)名 副、副。
そがひ(避及)名 既往に及ぶ、さかのぼり
て影響ある。一りよく「避及力」名(法)
新に制定發布せられたる法律が、其制定發布以前に
於ける事項に對して其適用を及ぼす力。

そくそく

そくそく(殺)名 殺(他カ四)者殺す。へらす。はぶ
き。殺す。切取る。殺す。殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。
そくそく(殺)名 殺(自カ下二)殺す。殺す。

そくいそく

そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。
そくい(側隠)名 あはれに思ふと、傷(は)
しく思ふ。「側」の意。

そくそく

そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。

そくそく

そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。

そくそく

そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。

そくそく

そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。

そくそく

そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。
そくそく(速記)名 速記(速記)の意。

ぞくぞくぞくせ

(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。

ぞくせぞくせ

(ぞくせ) 手段(名) うながしてはやく成就せしむる。(ぞくせ) 手段(名) うながしてはやく成就せしむる。(ぞくせ) 手段(名) うながしてはやく成就せしむる。

ぞくぞくぞくぞく

(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。



ぞくぞくぞくぞく

(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくぞく) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。

ぞくてぞく

(ぞくてん) 即點(名) 即座に點をつくと。(ぞくてん) 即點(名) 即座に點をつくと。(ぞくてん) 即點(名) 即座に點をつくと。

ぞくばぞくば

(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。



ぞくばぞくば

(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。(ぞくばく) 若干(名) 副。「ぞくばく」に同じ。

ぞくりぞくり

(ぞくり) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくり) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。(ぞくり) 俗人(名) 世帯の人。風流又は學問道徳を知らぬもの。

そくろーそくろ

そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。
そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。
そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

そくろーそくろ

そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。
そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。
そくろ(即位)名 帝王の位に即して給ふこと。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

そくろーそくろ

そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。
そくろ(底意)名 底意。

(そんせい) [尊姓] 名 他人の姓の敬稱。(そんせい) [村制] 名 町制の條を見よ。(そんせい) [村税] 名 町制の條を見よ。(そんせい) [村前] 名 神又は貴人の前、おんま(そんせい) [村税] 名 神又は貴人の前、おんま(そんせい) [村前] 名 神又は貴人の前、おんま...

(そんちより) [尊重] 名 たふとびおんする(そんちより) [村童] 名 わらのこども。(そんちより) [損得] 名 得失と利得。(そんちより) [損得] 名 得失と利得。(そんちより) [損得] 名 得失と利得...

(そんめい) [村名] 名 わらの名。(そんめい) [尊名] 名 他人の姓の敬稱。(そんめい) [存命] 名 いきてゐるといふきが(そんめい) [存命] 名 いきてゐるといふきが...

た 尊の敬稱、丁即ち舌端を硬口蓋の前部で觸れて發せしむる音と母音アとの發音。(た) [田] 名 耕して種を殖する土地。(た) [手] 名 一切の行動に用ふる語、一枕、一(た) [手] 名 一切の行動に用ふる語、一枕、一...

ただ

た 尊の敬稱、丁即ち舌端を硬口蓋の前部で觸れて發せしむる音と母音アとの發音。(た) [田] 名 耕して種を殖する土地。(た) [手] 名 一切の行動に用ふる語、一枕、一...

(た) [助動] 助動詞、なり、たり、花。(た) [接頭] 成語に冠して劣り又は弱さを表す語、一西落、一草子、一物、(た) [打] 名 イギリス語 Deans の物品物...

(たい) [胎] 名 胎の體內に子を孕ぶ機、こぶく、子宮、はらこ、胎生、はらのこ、(たい) [胎] 名 胎の體內に子を孕ぶ機、こぶく、子宮、はらこ、胎生、はらのこ、...

(たい) [大] 名 ひろき、おほき、たかき、たふと、たふと、おほき、おほき、たかき、たふと、(たい) [大] 名 ひろき、おほき、たかき、たふと、たふと、おほき、おほき、たかき、たふと、...

(たい) [胎衣] 名 えん。(たい) [襁褓] 名 コイルとイスと。(たい) [題意] 名 題の意。(たい) [大遊星] 名 われのいとひらくして物...

たいい—たいい

たいい—たいい 體の可否に就て討論するものにして、若し第二回會を開くべきものと決せば、其議案は成立すべきものとされど、若しこれを開くべからずと決せば、其議案は廢案となるべきものとす。

たいい—たいえ

たいい—たいえ たいいん[太陽]一名[天]地球の衛星即ちつきなり、地球より平均距離は地球の半径の約六十倍なり、軌道の離心率は十八分の一にして、黄道面は地球に比し八十一分の一にして比量は三、四なり。

たいえ—たいが

たいえ—たいが たいえつ[大虎]一名[虎]ははいるるよるこび、たいえん[大演習]一名[演習]規模の大なる演習。

たいが—たいか

たいが—たいか たいがい[大概]一名[概]ひとりのさま、あまのしるゝ、たいがい[大海]一名[海]あはれ、うなばら、

たいか—たいか

たいか—たいか たいかく[塞間]一名[塞間]中央官廳又は内閣の稱、たいかく[體格]一名[體格]身體のくみだて、からだのなりかた、

たいが—たいが

たいが—たいが たいがき[審判]一名[審判]昔時、火名などの行列に携へし、發見したる罪人を入れて縛を纏へたるもの、たいがく[大鳴]一名[大鳴]大體にて叱り飛ばす。

たいが—たいが

たいが—たいが たいがく[大義]一名[大義]最も重大なる人倫の義理、主又は國家に對する臣民の義務、

たいが—たいが

たいが—たいが たいがく[大敵]一名[大敵]大體の敵、たいがく[大牙]一名[大牙]大體の敵、たいがく[大河]一名[大河]大いなる河、

たいぶーたいぶ

たいぶより「對證」名 相對して互に證據をたせしむる。
たいぶより「大乘」名 佛經に「梵語 Mahāyāna」の譯非有非空を説き、煩惱即菩提生死即涅槃を立て、諸法の邊を盡くしたる教法、即ち菩薩六波羅密の教法小乘の對。



たいぶーたいぶ

大なる體格の人。
たいぶん「代診」名 醫師の許に居り、其醫師に代りて患者の診察をなすもの。
たいぶん「大臣」名 太政官の上官、即ち太政大臣左大臣右大臣内大臣等の稱、おほまうちぎみ、おほまらぎみ。

たいぶーたいぶ

いせきはんけつ「對席判決」に同じ。
たいぶん「大人物」名 器量のすぐれて大いなる人、性格の偉大なる人。
たいぶん「大臣召」名 古昔、大臣に任ぜられたるに召されし。



たいぶーたいぶ

歌、大いなる歌、即ち、十千百千萬萬等一以上の歌の稱。
たいぶ「對數」名 乙歌を得んがため甲歌を成算に高むべきとき、其算の相數の稱にして、甲歌を乙歌の對數と稱す、例へば、甲に於て、乙は、乙に對する對數にして、乙は對數の底數なり、常用對數は10を底數とす。

たいせーたいせ

たいせ「泰西」名 ヨーロッパ及アメリカ等の稱、即ち西洋。
たいせい「大政」名 天下の政治。
たいせい「大聲」名 おほいなるこゑ、おほいなるこゑを呼ぶ。

たいせーたいせ

たいせり「大笑」名 おほいにわらふと、おほらむ。
たいせり「大詔」名 ことのりの詔稱。
たいせり「大小」名 大なると小なると。

たいせーたいせ

たいせち「大切」名 おんごらにすると、丁寧にする。
たいせつ「大切」名 前條に同じ。
たいせつ「大切」名 多く降る雪。

たいせーたいせ

たいせんてい「大前提」名 論議三段論法の第一の前提の稱、小前提の對、三段論法の條参照。
たいせんのたいぶ「大膳大夫」名 大膳職。
たいせの「太祖」名 王朝の初代の帝王、その長官。

左い左—左い左

左い左—左い左 (名) 伊勢太神宮にて行ふ神樂。
左い左—左い左 (名) 股の中軸をなす骨。
左い左—左い左 (名) 股の中軸をなす骨。
左い左—左い左 (名) 股の中軸をなす骨。

左いた—左いち

左いた—左いち (名) 東海地方。
左いた—左いち (名) 東海地方。
左いた—左いち (名) 東海地方。
左いた—左いち (名) 東海地方。

左いち—左いて

左いち—左いて (名) 東海地方。
左いち—左いて (名) 東海地方。
左いち—左いて (名) 東海地方。
左いち—左いて (名) 東海地方。

左いて—左いと

左いて—左いと (名) 東海地方。
左いて—左いと (名) 東海地方。
左いて—左いと (名) 東海地方。
左いて—左いと (名) 東海地方。

左いと—左いぬ

左いと—左いぬ (名) 東海地方。
左いと—左いぬ (名) 東海地方。
左いと—左いぬ (名) 東海地方。
左いと—左いぬ (名) 東海地方。

左いぬ—左いに

左いぬ—左いに (名) 東海地方。
左いぬ—左いに (名) 東海地方。
左いぬ—左いに (名) 東海地方。
左いぬ—左いに (名) 東海地方。

左いに—左いに

左いに—左いに (名) 東海地方。
左いに—左いに (名) 東海地方。
左いに—左いに (名) 東海地方。
左いに—左いに (名) 東海地方。

左いに—左いは

左いに—左いは (名) 東海地方。
左いに—左いは (名) 東海地方。
左いに—左いは (名) 東海地方。
左いに—左いは (名) 東海地方。

たいはーたいは

間一人の人。
(たいはろ) [大邦] (名) ちいなるくに。
(たいはろ) [大寶] (名) 天子の位。
(たいはろ) [大望] (名) 「たいまろ」に同じ。
(たいはかり) [大望] (名) 重き荷物の重量を測る。
(たいはかり) [大望] (名) 重き荷物の重量を測る。
(たいはかり) [大望] (名) 重き荷物の重量を測る。

たいばーたいふ

(たいばん) [大盤] (名) 大いなる盤。
(たいばん) [大盤] (名) 大いなる盤。
(たいばん) [大盤] (名) 大いなる盤。
(たいばん) [大盤] (名) 大いなる盤。

たいふーたいふ

(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。

たいふーたいへ

(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。
(たいふ) [大福] (名) 大いなる福。



たいへーたいは

(たいへい) [太平] (名) 大いなる平。
(たいへい) [太平] (名) 大いなる平。
(たいへい) [太平] (名) 大いなる平。
(たいへい) [太平] (名) 大いなる平。

たいはーたいみ

(たいはん) [大判] (名) 大いなる判。
(たいはん) [大判] (名) 大いなる判。
(たいはん) [大判] (名) 大いなる判。
(たいはん) [大判] (名) 大いなる判。



たいみーたいめ

(たいみ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいみ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいみ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいみ) [大味] (名) 大いなる味。

たいめーたいや

(たいめ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいめ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいめ) [大味] (名) 大いなる味。
(たいめ) [大味] (名) 大いなる味。



たいやーたいよ

面に對して八十三度の傾斜をなせり。日輪...
(たいやーたいよ) (太陽系) (名) 太陽を中心として運行するすべての天體の稱。遊星、衛星及彗星より成る。...

(たいやーたいよ) (太陽系) (名) 太陽を中心として運行するすべての天體の稱。遊星、衛星及彗星より成る。...

たいよーたいり

(たいよーたいり) (大用) (名) たいよん。 (たいよーたいり) (代用) (名) 他人のもの、かはりに使用する。...

(たいよーたいり) (大用) (名) たいよん。 (たいよーたいり) (代用) (名) 他人のもの、かはりに使用する。...

たいりーたいり

(たいりーたいり) (対流) (名) 液体又は氣體の熱せらるゝとき、流動運動をなす。例へば水を入れたる器の底を熱する時、熱を得たる底部の水は膨張して周囲の水の下を這ひ上りて出て来る。...

(たいりーたいり) (対流) (名) 液体又は氣體の熱せらるゝとき、流動運動をなす。例へば水を入れたる器の底を熱する時、熱を得たる底部の水は膨張して周囲の水の下を這ひ上りて出て来る。...

たいりーたいら

(たいりーたいら) (代理店) (名) 代理店。 (たいりーたいら) (代理人) (名) 他人の代理をなす。...

(たいりーたいら) (代理店) (名) 代理店。 (たいりーたいら) (代理人) (名) 他人の代理をなす。...

たいろーたいら

(たいろーたいら) (大呂) (名) 十二律の二。 (たいろーたいら) (大路) (名) 幅廣き道路。...

たいりーたいら

(たいりーたいら) (代位) (名) 他人に代かほりて其地位に就く。 (たいりーたいら) (代行) (名) 他人に代かほりて其地位に就く。...

たろーたいら

(たろーたいら) (大和尙) (名) 身體のたくましくしむ。 (たろーたいら) (大和尙) (名) 身體のたくましくしむ。...

たらいーたいら

(たらいーたいら) (大友) (名) なかま、とも。 (たらいーたいら) (大友) (名) なかま、とも。...



たろふ—たりま

ひだりしもの、今の羽織はこれより起れるなり
(たろふ) 道士の着る服
(たろふ) 唐物(名) 外国よりわたりたる品

たろふ—たりも

たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇(たろふ)を吹き分ける具
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ



たろふ—たりら

たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ

たろふ—たりら

たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ

保持する警備、即ち危険なる道路の通行を禁止する
(たろふ) 道士の着る服
(たろふ) 唐物(名) 外国よりわたりたる品

たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ



たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ

たろふ(唐箕)(名) 穀物のたろふ又は扇
(たろふ) 唐箕(名) 穀物のたろふ



たかす 一 たかつ

たかす [竹筒] (名) たけすがき。
たかす [高砂] (名) 海濱などにて砂の堆積する所。
たかす [高瀬] (名) 川の浅き所をさへ。
たかす [高瀬船] (名) 一、高瀬の舟。二、高瀬に下りて平たき小船。三、一種の大なる川船。
たかす [高瀬] (名) 古今集、高瀬は舟、ふれし宿の梅、そよ風の歌より名づく。細い舟にて二つちたれて、たかす、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。



たかす [高瀬] (名) 川の浅き所をさへ。
たかす [高瀬船] (名) 一、高瀬の舟。二、高瀬に下りて平たき小船。三、一種の大なる川船。
たかす [高瀬] (名) 古今集、高瀬は舟、ふれし宿の梅、そよ風の歌より名づく。細い舟にて二つちたれて、たかす、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかて 一 たかの

たかて [高小手] (名) 人をきつく腰重に縛るさまに、高小手。
たかて [高燈籠] (名) 大衆の祭り、縁に懸る草燈籠、花は四瓣淡紫色にして、夏に開く。果實は球形、突起あり。大衆、たかて、たかての様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たか [たかす] (名) 高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかの 一 たかひ

たかの [たかひ] (名) たかひ、たかひの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかの [たかひ] (名) たかひ、たかひの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかひ 一 たかま

たかひ [たかま] (名) たかま、たかまの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかひ [たかま] (名) たかま、たかまの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかま 一 たか

たかま [たか] (名) たか、たかの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たかや 一 たから

たかや [たから] (名) たから、たからの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たから 一 たさ

たから [たさ] (名) たさ、たさの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たさ 一 たさ

たさ [たさ] (名) たさ、たさの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。高瀬、たかすの様にせし昔時の香。

たぐりーたけ

たぐりーたけ (手繰込) (他、三四) たぐりーたけ (手繰込) (他、三四) たぐりーたけ (手繰込) (他、三四) ...

たけーたけが

たけーたけが (植) 木本に属する植物地下茎を有する ...

たけかーたけた

たけかーたけた (この遊戯のこと) ...



たけかーたけた

たけたーたけの

たけたーたけの (武田義) (名) 姓所の名義形の中に ...

たけのーたけふ

たけのーたけふ (竹) (名) 竹の節を指す ...

たけふーたこ

たけふーたこ (たけふ) (名) 竹の節を指す ...

たこーたこの

たこーたこの (たこ) (名) 竹の節を指す ...



たこーたこの

たごのーたさく

たごのーたさく (たご) (名) 竹の節を指す ...

たぎく—たしい

たぎく(短冊) 名 たんごくの時書。一、たぎく(賦作) 名 つまらぬ創作、よわなつく(たぎつ) 名 他人に殺害せられたる人

たしか—たしな

たしか(確信) 名 確りして動かさざると、かたして疑わざると。たしか(確證) 名 確かなる証拠、相違なきこと。

たしに—たきや

たしに(出抜) 名 出抜るに、おほくた、大抵、たしに(出抜) 名 不足を補ふ分、おほくた

たきや—たじろ

たきや(不換紙幣) 名 不換紙幣。一、たじろ(太政官日誌) 名 明治の初年、朝廷に於ける日々、の行事を記載して公布せられし文書、今の官報に類するもの。

たきん—たすけ

たきん(他心) 名 たいに他意に同じ。たきん(他人) 名 ほかのひと。たきん(除人) 名 除人を指して打ち、其野蠻に、よりて内閣の職務を診察する。

たせい—たた

たせい(助船) 名 船風などにあひてくゝる(他) 名 たすけの助。たせい(他姓) 名 他人の姓、ほかのうち、

ただ—たたか

ただ(只) 名 副 代金を交換はしてすむにいふただ(徒) 名 副 何の特色も無きと、何の功効もなきと、むだ、あだ。

たたか—たたき

たたか(たたき) 名 たたき。たたか(たたき) 名 たたき。たたか(たたき) 名 たたき。

たたら

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたら

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたら

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたら

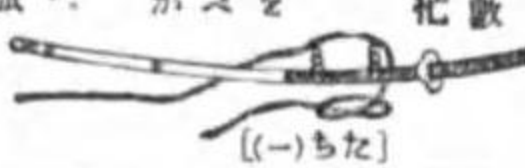
たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...

たたらはなし 敵放 名 たたらはなしに...



たちぞーたちぞ

たちぞらみ「立暗」(名) 起り上るときにめまじりする。
たちぞらむ「立籠」(名) 人馬など多し。
たちぞらむ「立籠」(名) 人馬など多し。
たちぞらむ「立籠」(名) 人馬など多し。

たちなーたちな

たちなむ「むしむし」(立籠) (白、白、四) 立たんとして立つ。
たちなむ「むしむし」(立籠) (白、白、四) 立たんとして立つ。
たちなむ「むしむし」(立籠) (白、白、四) 立たんとして立つ。

たちはーたちは

たちはたらき「立働」(名) たちはたらき。
たちはたらき「立働」(名) たちはたらき。
たちはたらき「立働」(名) たちはたらき。

たちまーたちま

たちまち「忍」(副) にはかに、忍に。
たちまち「忍」(副) にはかに、忍に。
たちまち「忍」(副) にはかに、忍に。

たちやーたつ

たちやすら「立休」(白、白、四)
たちやすら「立休」(白、白、四)
たちやすら「立休」(白、白、四)。

たつーたつ

たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。

たつーたつ

たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。

たつーたつ

たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。
たつ「立」(名) 身あらはると、勢さかゆると。



[をうのちた]

たづき—たづる

事に出づ、辨記に類聚魚の句あり、類はかはをそ、
たづきはり、たづき(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづき(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづき(名)たづきはるといふ、

たづき—たづね

たづき(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづき(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづき(名)たづきはるといふ、

たづき—たづさ

たづさ(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづさ(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづさ(名)たづきはるといふ、

たづさ—たづの

たづの(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづの(名)たづきはるといふ、
たづきはる、たづの(名)たづきはるといふ、

たつ—たつり

たつ(名)たつはるといふ、
たつはる、たつ(名)たつはるといふ、
たつはる、たつ(名)たつはるといふ、

たつり—たて

たつり(名)たつはるといふ、
たつはる、たつり(名)たつはるといふ、
たつはる、たつり(名)たつはるといふ、

たて—たてたて

たて(名)たてはるといふ、
たてはる、たて(名)たてはるといふ、
たてはる、たて(名)たてはるといふ、

たてか—たてく

たてか(名)たてはるといふ、
たてはる、たてか(名)たてはるといふ、
たてはる、たてか(名)たてはるといふ、



たてこーたてつ

たてこみ(立込)名 たてこむと、こみあひ、たてこむがた(立込)真ま四、こみあひ、たてこむがた(立込)真ま四、こみあひ、たてこむがた(立込)真ま四、こみあひ、

たててーたてふ

たててふ(立込)名 立つところ、たててふ(立込)名 立つところ、たててふ(立込)名 立つところ、たててふ(立込)名 立つところ、

たてふーたても

たてふえ(堅笛)名 堅笛にして吹く管、即ち尺八の類、たてふえ(堅笛)名 堅笛にして吹く管、即ち尺八の類、

たてもーたてさ

たても(建物)名 木材又は石材等を組み立てて、つくりたるもの、即ち家屋、倉庫等の類、たても(建物)名 木材又は石材等を組み立てて、



[たてまてた]

たてこーたてん

たてごころ(田所)名 田、田、田の多くある所、たてごころ(田所)名 田、田、田の多くある所、

たなーたなご

たな(店)名 かせだの略、たな(店)名 かせだの略、たな(店)名 かせだの略、



[たなご]

たなごーたなひ

たなごころ(掌)名 手心の義、手の裏、ひら、たなごころ(掌)名 手心の義、手の裏、ひら、

たなひーたにか

たなひ(手取)名 ひび、たなひ(手取)名 ひび、たなひ(手取)名 ひび、

たねがーたねん

開山腹の空気を熱せられて種と成りたると、これを種はんにたねに谷間より吹き上る風。...

たねがーたねが

たねがーたねが (名) こと、うてぬき、(鹿) 行。...



たねがーたのく

たねがーたのく (名) 同く父の異なる。...

たのこーたのむ

たのこーたのむ (名) 手拭 (名) てぬぎ。...

たのむのいはひ (田實祝) (名) 八朔に新穀を神に供して祭ると。

たのむの (田物) (名) 鷹狩にて、鳴雁などの稱。...

たのむの (田物) (名) 鷹狩にて、鳴雁などの稱。...

たのむの (田物) (名) 鷹狩にて、鳴雁などの稱。...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...



たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...



たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たばこ

たばこ(名) 煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して、煙草の葉を乾燥して...

たまのーたま

足にて其のこがり易きをまつかひながし、種々の曲影をなすもの。
たまのー玉緒(名) 玉を貫くことなる。
たまのー玉緒(名) 玉を貫くことなる。
たまのー玉緒(名) 玉を貫くことなる。

たまへーたま

たまへん(玉偏)名 玉の字の偏、字書にて玉部は玉の字の左方にある玉の字の偏、字書にて玉部は玉の字の左方にある玉の字の偏。

たまのーたま

たまのく(玉木)名 玉木をなす美しき木目。
たまのく(玉木)名 玉木をなす美しき木目。
たまのく(玉木)名 玉木をなす美しき木目。

たまのーたま

たまの(民)名 國家社會を組織する人類。
たまの(民)名 國家社會を組織する人類。
たまの(民)名 國家社會を組織する人類。

たむーたむ

たむ(形)他(下二)さいまく。
たむ(形)他(下二)さいまく。
たむ(形)他(下二)さいまく。

たむらーたむ

たむら(形)田村草(名) 田村草に属する草。
たむら(形)田村草(名) 田村草に属する草。
たむら(形)田村草(名) 田村草に属する草。

たむすーたむ

たむす(高筋)名 ためになる。
たむす(高筋)名 ためになる。
たむす(高筋)名 ためになる。

たむとーたむ

たむと(保)名 ためになる。
たむと(保)名 ためになる。
たむと(保)名 ためになる。

たん一たん

斜に切りたる切口は即ち種間なり。一りつ(精)
(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

明定せられたる法律。一たん(単行犯)(名)
(法)一回の所為によりて成立する犯罪、犯罪の
多数はこれに属す。一たん(単行本)(名)
(冊)子の中に編入せられたるものに対して、單獨に
出版せられたる本の稱。一りつ(単行本)(名)
(冊)子の中に編入せられたるものに対して、單獨に
出版せられたる本の稱。一りつ(単行本)(名)

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たん一たん

(たん)一たん(名) ひとへ。ひとりと。ひとつ。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。
(たん)短(名) 多量ならざる。多量ならざる。

たんせーたんせ

たんせーたんせ (名) たんせーたんせ。たんのせき(祖湯) (名) はたぬせ。

たんそーたんた

たんそーたんた (名) たんそーたんた。たんのそ(炭素) (Carbon) (名) [化] 無味無臭の...

たんたーたんち

たんたーたんち (名) たんたーたんち。たんのた(探) (名) 探る。たんのち(知) (名) 知る。

たんちーたんて

たんちーたんて (名) たんちーたんて。たんのち(地) (名) 地。たんのて(頂) (名) 頂。

たんでーたんど

たんでーたんど (名) たんでーたんど。たんのて(端) (名) 端。たんのど(端) (名) 端。

たんどーたんに

たんどーたんに (名) たんどーたんに。たんのど(段) (名) 段。たんに(取) (名) 取。

たんちーたんば

たんちーたんば (名) たんちーたんば。たんのち(探) (名) 探。たんば(探) (名) 探。

たんばーたんひ

たんばーたんひ (名) たんばーたんひ。たんば(探) (名) 探。たんひ(探) (名) 探。



【くどんた】

ちから

ちからみち(近路)名 道のりの近き路。運成の手段(近道)名 遠方の見えざる路。きんが(近道)名 見えざる路。ちから(力)名 物に作用する草、葉の高き三四尺にして葉生ず、葉を抽出して花を包む。これをちからといふ。夏、葉を抽出して花を包む。これをちからといふ。...

ちから

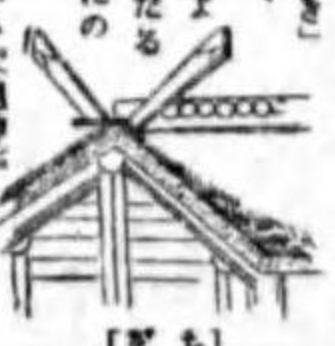
ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...

ちから

ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...

ちから

ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...



ちから

赤道に於て最も大にして兩極に於て稍短く、二百九十九分の一の扁平率を有する扁平球體をなす。太陽よりの距離は三千六百萬里、春分點に對しては三六五、二四二日、夏至に對しては三六五、二五六日にて太陽を一周す、公轉によりて四季を生じ、自轉によりて晝夜を分つ、面積は約三千三百萬方里、表面は種々の岩石によりて構成せられ、内部には向は熱なる物質存在す。...

ちから

ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...

ちから

ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...

ちから

ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。即ち重力、水力等の如きこれなり。ちから(力)名 動物の體に具有せる筋肉の作用。物理の運動を起し或は運動を止めんとする原因。...



ちくいーちくき

つばは、ひとつに。ちくばらに、くはし。ちくいん「竹印」(名) 竹に刻したる印。ちくわら「知遇」(名) よくその人の性質を知られ、厚く待遇せらるること。...



【きんあくち】

ちくきーちくす

ちくき「千草色」(名) もろ。ちくきり「竹槍」(名) たけや。ちくきり「竹槍席」(名) たけやとわしるばたと、即ち百姓一揆のことも。...

ちくせーちくで

ちくせ「蓄積」(名) たくは(つむ)又、其もちくせ「逐斥」(名) おひきりぞくこと。ちくせ「竹葉」(名) たかむし。ちくせ「竹葉」(名) たかむし。...

ちくきーちくき

ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。...

ちくきーちくき

ちくき「蓄積」(名) たくは(つむ)又、其もちくき「逐斥」(名) おひきりぞくこと。ちくき「竹葉」(名) たかむし。...

ちくきーちくす

ちくき「千草色」(名) もろ。ちくきり「竹槍」(名) たけや。ちくきり「竹槍席」(名) たけやとわしるばたと、即ち百姓一揆のことも。...

ちくせーちくで

ちくせ「蓄積」(名) たくは(つむ)又、其もちくせ「逐斥」(名) おひきりぞくこと。ちくせ「竹葉」(名) たかむし。...

ちくきーちくき

ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。ちくき「乳食」(名) 乳子を授乳する。...



【わごち】

ちほりーちほふ

政區劃の各地方に行ふ行政、即ち地方機關の総行政、中央行政の對、——ちほりわん(地方行政機關)名、地方機關に同じ。——ちほりわん(地方行政官)名、地方行政の事務を取扱ふ官吏、即ち府縣知事、府縣事務官、部長等これなり。——ちほりわん(地方行政官廳)名、(法)行政區域の一地方内の行政事務を其事によりて履行する権限及責任ある機關、即ち府縣知事及部長等の如し、又、其機關が其職務を處理する所、——ちほりわん(地方行政官庁)名、府縣に同じ。——ちほりわん(地方行政官署)名、地方自治機關に同じ。——ちほりわん(地方行政官署)名、地方自治機關に同じ。——ちほりわん(地方行政官署)名、地方自治機關に同じ。——ちほりわん(地方行政官署)名、地方自治機關に同じ。

ちほふーちほふ

ちほふーちほふ(地質)名、簡単に、敵の石を崩れ取り、且つ其地を自分のものとす。ちほふーちほふ(血)名、血をよむ血をよむ。ちほふーちほふ(血)名、血をよむ血をよむ。ちほふーちほふ(血)名、血をよむ血をよむ。

ちひさーちひさ

ちひさーちひさ(魚)名、一匹の鯛、規模大にして水中に立て、布段し、魚の其中に入るを待ち、次第にこれを陸地に引寄せ、て捕ふるもの、多く漁獲なき海に用ふ。ちひさ(小刀)名、武器の用ふる脇差より稍長き刀、即ち中古の脇差に同じ。ちひさ(小形)名、大ならざる。ちひさ(小形)名、大ならざる。

ちふくーちふく

ちふくーちふく(地腹)名、土地の中地下。ちふくら(地腹)名、門のまき。ちふくら(乳腹)名、三味線の縁起物の下の左。ちふくら(乳腹)名、前條に同じ。ちふくら(乳腹)名、前條に同じ。ちふくら(乳腹)名、前條に同じ。

ちふんーちふん

ちふん(地文)名、大地の構造、そのあや。ちふん(地文)名、大地の構造、そのあや。ちふん(地文)名、大地の構造、そのあや。

ちほろーちほろ

ちほろ(地神)名、道祖神。ちほろ(地神)名、道祖神。ちほろ(地神)名、道祖神。ちほろ(地神)名、道祖神。

ちまみーちまみ

ちまみ(地味)名、土地の生産力の度合、即ち土地の作物に宜しき宜しきものとす。ちまみ(地味)名、土地の生産力の度合、即ち土地の作物に宜しき宜しきものとす。

ちめいーちめい

ちめい(知名)名、石を世間に知られてゐる。ちめい(知名)名、石を世間に知られてゐる。ちめい(知名)名、石を世間に知られてゐる。



鳥の一種、規模大にして水中に立て、布段し、魚の其中に入るを待ち、次第にこれを陸地に引寄せ、て捕ふるもの、多く漁獲なき海に用ふ。

ちや—ちや

の頃、新葉を生ず、葉は常緑にして光澤あり、秋の末花開く、花は白色にして、明瞭なる柄を有す、葉質は...

ちやり—ちや

色深き葉色。(ちやり) (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...

ちやり—ちや

「ちやり」 (名) 接尾。等号と被定語とを結ぶもの、(ちやり) (名) 尺の十倍、(ちやり) (名) 尺の十倍、(ちやり) (名) 尺の十倍、...

ちやり—ちや

「ちやり」 (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...

ちやり—ちや

(ちやり) (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...

ちやり—ちや

(ちやり) (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...

ちやり—ちや

(ちやり) (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...

ちやり—ちや

(ちやり) (名) 距離の単位、六十間即ち三百六十尺の略、(ちやり) (名) 距離の単位、十間即ち...



(一)茶(茶)

ちやうちやう

「ちやうちやう」(長文) (名) 冒章のながき文字... 「ちやうちやう」(長篇) (名) 冒章のながき時文...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(帳簿) (名) ちやうちやう帳簿... 「ちやうちやう」(帳簿) (名) ちやうちやう帳簿...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(帳簿) (名) ちやうちやう帳簿... 「ちやうちやう」(帳簿) (名) ちやうちやう帳簿...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(茶籠) (名) 茶籠を入れる、かご... 「ちやうちやう」(茶籠) (名) 茶籠を入れる、かご...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(着衣) (名) 衣服を着ると、又、着し... 「ちやうちやう」(着衣) (名) 衣服を着ると、又、着し...

ちやうちやう

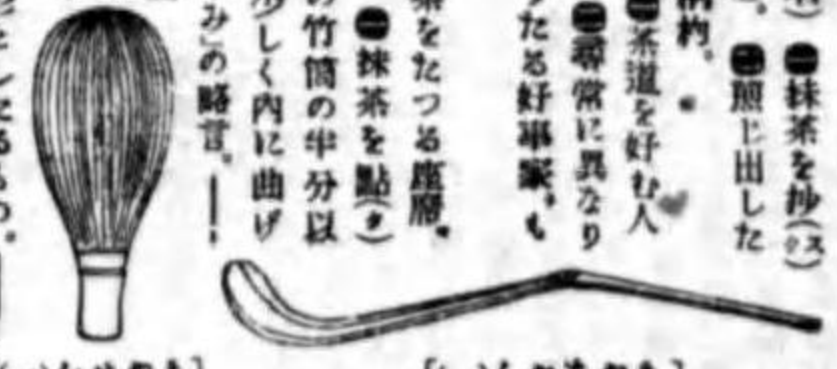
「ちやうちやう」(着席) (名) 席に着くと、少座... 「ちやうちやう」(着席) (名) 席に着くと、少座...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(着目) (名) ちやうちやう(着目)... 「ちやうちやう」(着目) (名) ちやうちやう(着目)...

ちやうちやう

「ちやうちやう」(茶杓) (名) 抹茶を抄く... 「ちやうちやう」(茶杓) (名) 抹茶を抄く...



ちやんちやん

(名) 飲食又は遊樂をせしめる家の事を公するもの。...

ちやんちやん

一人目くして、他の一人の前には茶めしあがれ...

ちやんちやん

(名) 茶瓶の下に去くもの。...

ちやんちやん

(名) 茶瓶の下に去くもの。...

ちやんちやん

(名) 飲食又は遊樂をせしめる家の事を公するもの。...



ちやんちやん

一人目くして、他の一人の前には茶めしあがれ...

ちやんちやん

(名) 茶瓶の下に去くもの。...

ちやんちやん

(名) 茶瓶の下に去くもの。...

ちゆうりーちゆうりー (right side)

ちゆうりーちゆうりー (left side, top to bottom)

ちゆうりーちゆうりー (right side)

ちゆうりーちゆうりー (left side, top to bottom)



いけりうち

ちゆりーちゆり

ちゆりはく「中白」名 中等の白米。ちゆりはく「重箱」名 食物を入れ盛る器。ちゆりはく「重箱」名 食物を入れ盛る器。ちゆりはく「重箱」名 食物を入れ盛る器。ちゆりはく「重箱」名 食物を入れ盛る器。

ちゆりーちゆり

ちゆりふら「中風」名 腹をめぐれる血管破裂。ちゆりふら「中風」名 腹をめぐれる血管破裂。ちゆりふら「中風」名 腹をめぐれる血管破裂。ちゆりふら「中風」名 腹をめぐれる血管破裂。

ちゆりーちゆり

ちゆりやう「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名。ちゆりやう「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名 ちゆうやん「仲陽」名。

ちゆりーちゆり

ちゆりりつ「中立」名 相対する雙方の何れも味方し若しくは反対せず。ちゆりりつ「中立」名 相対する雙方の何れも味方し若しくは反対せず。ちゆりりつ「中立」名 相対する雙方の何れも味方し若しくは反対せず。

ちゆりーちよい

ちゆりわ「中和」名 偏頗なき性徳の發して。ちゆりわ「中和」名 偏頗なき性徳の發して。ちゆりわ「中和」名 偏頗なき性徳の發して。ちゆりわ「中和」名 偏頗なき性徳の發して。

ちよりーちより

ちより「寵」名 殊の外のかはゆがり。ちより「寵」名 殊の外のかはゆがり。ちより「寵」名 殊の外のかはゆがり。ちより「寵」名 殊の外のかはゆがり。

ちよりーちより

ちより「重九」名 九月九日の節句。ちより「重九」名 九月九日の節句。ちより「重九」名 九月九日の節句。ちより「重九」名 九月九日の節句。

ちよりーちより

ちより「重慶」名 重慶に於て。ちより「重慶」名 重慶に於て。ちより「重慶」名 重慶に於て。ちより「重慶」名 重慶に於て。

ちよりーちより

(ちよりせり) 龍招(名) 特別の特遇を以てまねくこと。龍(龍)に預り。
(ちよりせふ) 龍妾(名) 氣に入りのゆかり。
(ちよりせん) 重選(名) かきわてまらばるる。
(ちよりせ) 重許(名) 一旦位を退けりたる帝王が、更に再び位に即せ給ふこと。重許(重許)。

ちよりーちより

(ちよりけい) 龍巻(名) 氣にいら。
(ちよりへい) 龍巻(名) 龍巻(龍巻)に似たる。
(ちよりへい) 龍巻(名) 龍巻(龍巻)に似たる。
(ちよりへい) 龍巻(名) 龍巻(龍巻)に似たる。

ちよかーちよか

(ちよか) 龍(名) 土氣などよめて渡動を盛るる。
(ちよか) 龍(名) 土氣などよめて渡動を盛るる。
(ちよか) 龍(名) 土氣などよめて渡動を盛るる。

ちよくーちよく

(ちよく) 龍(名) 龍(龍)に似たる。
(ちよく) 龍(名) 龍(龍)に似たる。
(ちよく) 龍(名) 龍(龍)に似たる。

ちよくーちよく

管轄 一がくかり(直轄) (直轄) (名) 主務者の直轄に属する學校。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。

ちよくーちよく

(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。

ちよくーちよく

(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。

ちよくーちよく

(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。
(ちよくかん) 直轄 (名) 動力に由りての點。



[ねぶきよち]

ちやくーちやく

の上は何に置くと其二點が必ず其上に接つ... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

皇の御意にて、其辭令書に御筆を鈐し、内閣總理大臣これに奉行して任命せらるる官吏、即ち一等二等の高等官これなり... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

したまふ命令、内閣に於て起草し又は各省大臣に於て案を具して内閣に提出し、上院にて認可を請ひ... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

の申立により、其請求又は権利の消滅する判決... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

と著述 (法) 文藝・學術若しくは美術の範圍に屬するもの、創作、即ち自己の思想若しくは意見を文章・圖畫・彫刻・模型・寫眞等によりて發表する... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

(ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

(ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちやくーちやく

(ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの... (ちやくーちやく) 直線形(名) 直線に似たるもの...

ちよぼ ちよぼら

ちよぼ (名) 同じことを重ねて記す場合に時して...

ちよりの ちよわ

ちよりの (名) 女性の人をんな。

ちよわ ちよわら

ちよわ (名) 女性の人をんな。

ちらし ちらは

ちらし (名) ちらすと、ちらすと。

ちらり ちらり

ちらり (名) ちらりと、ちらりと。

ちりが ちりの

ちりが (名) ちりの。

ちりの ちりの

ちりの (名) ちりの。

ちりみ ちりみ

ちりみ (名) ちりみ。

ちわりーちん

黄煎(名)地質の根を加へてねりたる餅。
ちわり(地割)(名)地面の區劃。地所の劃分。
ちり(地位)(名)ちりこるをりはたよ、たち

ちんーちんが

又兵士を列ねて形づくりたる陣伍。長蛇の陣。
ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に



ちんがーちん

ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんがーちん

ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちんが(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんーちん

ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんーちん

ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんーちん

ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんーちん

ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に
ちん(陣)(名)陣中にて進退の合圖に

ちんちん

「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、... 「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、...

ちんちん

「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、... 「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、...

ちんちん

「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、... 「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、...

ちんちん

「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、... 「ちんちん」(名) 延命などをすりつ、...



ついで

「ついで」(名) 延命などをすりつ、... 「ついで」(名) 延命などをすりつ、...

ついで

「ついで」(名) 延命などをすりつ、... 「ついで」(名) 延命などをすりつ、...

ついで

「ついで」(名) 延命などをすりつ、... 「ついで」(名) 延命などをすりつ、...

ついで

「ついで」(名) 延命などをすりつ、... 「ついで」(名) 延命などをすりつ、...



つらき (痛傷) (名) いたみ、いたみかたしむ。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。
つらき (通商) (名) 異なる國の人の互に交通して商事をいふこと。

つがひーつか

つがひ「番」(名) つがよと。つがよもの。つがひめ「骨」...

つかへーつかむ

つかへ「支聞」(名) つかへつかへ。つかへつかへ。つかへつかへ。つかへつかへ。

つがもーつか

つがも「ない」(形) つかもつかも。つかもつかも。つかもつかも。つかもつかも。

つがーつかあ

つが「月」(名) つが月。つが月。つが月。つが月。つが月。つが月。つが月。つが月。

つがあーつかあ

つがあ「突上」(他) つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。

つかあーつかあ

つかあ「突合」(名) つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。

つかあーつかあ

つかあ「突上」(名) つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。

つかあーつかあ

つかあ「突上」(名) つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。つかあつかあ。

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...



つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...

つくり

つくり物(つくりもの) 附着(他、か下二) 結合せしむ。ひたさず。くつつかす。あはす。...